みなとシティ交響楽団
第1回演奏会
日本の交響楽
Japanese orchestra works

C.ウェーバー
歌劇「魔弾の射手」序曲(1821)

Carl von Weber/　'Der Freischütz' Overture (1821)

山田耕筰
音詩　曼陀羅の華 (1913)

Kósçak Yamada / Symphonic Poem "Madara no Hana"(1913)

伊福部昭
シンフォニア　タプカーラ (1954/1979)

Akira ifukube / Sinfonia Tapkaara Revision 1979
東京音楽大学付属図書館ニッポニカ・アーカイヴ・コレクション演奏譜使用

指揮:中島章博(音楽監督)
Akihiro Nakajima, Conductor

演奏:みなとシティ交響楽団
Minato City Symphony Orchestra (MCSO)

2022年9月16日(金)　杉並公会堂 大ホール

入場無料 19時開演 (18:30開場)

アクセス:荻窪駅北口(JR中央線・総武線・東京メトロ丸ノ内線)より徒歩7分。

■ご来場を希望される方は、コロナ対策のため、事前に以下のサイトから登録をお願いします
https://teket.jp/4174/14726

■出演者への花束、プレゼントはお預かりいたしません。
■体調不良、コロナの濃厚接触の疑いがある場合などのご来場はお控えください。
■会場内では施設管理者および係員の指示に従い感染対策をお願いします。

演奏：みなとシティ交響楽団

みなと第九を歌う会に参加した人々から、第九以外も演奏したいとの声をうけ2022年4月に発足しました。音楽を楽しむことは勿論、邦人作品に精通されている中島章博氏の指導により、演奏される機会が少ない邦人作品を多く取り上げ、地域貢献のひとつとして練習所のある港区の音楽的な遺産を掘り起こす活動も行っていきます。

指揮：中島章博

早稲田大学理工学部、東京大学工学系研究科博士前期課程を経て同後期課程へ進学した後、2007年よりオーストリア共和国立ザルツブルク・モーツァルテウム大学指揮科に留学。2010年に帰国後、博士後期課程を修了し建築音響工学の分野で博士（工学）を取得。
これまでに日本はもとより、ヨーロッパを中心とした世界各国のオーケストラを指揮する。
近年は作曲・編曲活動にも力を入れており、テレビアニメやCMへの楽曲提供、各オーケストラへ作編曲作品の提供も行っている。2021年度ズーラシアンブラスお友達プレイヤー（指揮）。

～コラム　港区の記憶～

【山田耕筰と港区（曼陀羅の華）】

「光澄む　海を抱きて　見はるかす　緑の丘に」
この歌詞でピンとくる人は少ないと思われます。これは昭和24年に制定された**「港区歌」**の冒頭で、この曲の**作曲者は山田耕筰**なのです。港区のHP「港区ゆかりの人物データベース」にも記載がありませんが、実は山田耕筰は港区と深い縁がある人物です。

彼は1886年、現在の東大構内（正門の横）で生まれました。港区で居住した場所をざっとあげてみても、**愛宕町下、霊南坂、白金の豆腐屋、三田南寺町、赤坂伝馬町、青山北町、青山南町、狸穴町、麻布新網町**、そして、**材木町**に住んでいた**團伊玖磨**が父に連れられ、『この子に作曲を諦めさせてくれ』と事前に打ち合わせをしたにもかかわらず「この子に作曲をさせましょう」と言ったのは、今のミッドタウンのそばの檜町。檜町は引っ越し魔の耕筰がもっとも長く住んだ場所で、現在の港区赤坂9-2-11に山田耕作が住んだ南風荘がありました。ミッドタウンの毛利庭園から檜坂を登り切ったところ、乃木坂からは赤坂小前の急な坂道を登ったところ、この地で「からたちの花」を作曲したと言われていることから**「からたちの花」**の楽譜が書かれている**石碑が設置**されています。またここで彼は高級料亭も経営してました。檜町は住みやすい場所であったようで、毎年6月9日には庭先にあったお稲荷さんのお祭りを行って付近の名物になっていたそうです。
耕筰は恒久的なオーケストラを結成した最初期の人物の一人で、その**東京フィルハーモニー會管絃樂部**は1914年**赤坂の伝馬町**に事務局を構え、洋楽の普及に努めており、また同時に「居ながらにして欧米の最新楽潮を我国に於いて最も早く知ることが出来る」音楽普及会を結成し、夏期講習会など赤坂で実施しておりました。

そのほかに港区では、大正5（1916）年には**赤坂見附**の映画館「萬歳館」を改良したG.ローシー氏による**オペラハウス「ローヤル館」**がオープンし「天国と地獄」「カバレリア・ルスティカーナ」「セビリアの理髪師」「椿姫」を上演するなど、日本のオペラ界に大きな影響を与えました。また1918年には**飯倉**に**徳川頼貞侯爵による南葵楽堂**（正式名称は南葵文庫附属大礼紀念館）が80名の管絃楽団によるベートーヴェンの音楽で開堂、パイプオルガンも設置されていますが、南葵楽堂の存在を知る人は殆どおりません。また現在の放送都市らしく、日本最初のラジオ局**東京放送局（JOAK）**が芝の愛宕山に設置され、**放送歌劇**として生演奏の「魔弾の射手」が1928年に放送されています。

これらの人材、施設が集積していた港区は、当時の洋楽のメッカだった歴史があります。